第４学年　道徳　学習指導案

本授業における主張
　本授業は，主人公が友達の書いた作文を読み，友達の長所も短所も認めていくようになる気持ちに共感し，自分も友達を大切にしようとする意欲を養う授業である。
　そのために，資料を場面絵によって提示し，児童が場面状況を把握しやすくする。さらに，主人公の心情を変えていく作文は視聴覚機器を利用し強く印象付ける。そして，主人公はどんなことに気がついたか話し合うことでより高い道徳的な価値に気付かせ，自分ならこれからどうしたいか，どうなりたいかについて考えることで，実践への意欲を育てていく。

１　主題名　　「友達のことよく考えて」

２　資料名　　「ぼくは知ってる　陽一のよいところ」（自作資料＜資料１＞）
２－(3)友情・信頼

３　主題設定の理由

(1)　ねらいとする価値について

　学習指導要領解説道徳編によると，本主題の内容は『「２主として他の人とのかかわりに関すること」(3)友達と互いに理解し，信頼し，助け合う。（中学年）』である。この内容項目は以下のような関連がある。

低学年(3) 友達と仲よくし，助け合う。
中学年(3) 友達と互いに理解し，信頼し，助け合う。
高学年(3) 互いに信頼し，学び合って友情を深め，男女仲良く協力し助け合う。
中学校(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち，互いに励まし合い，高め合う。

　小学校段階では，「助け合う」ということが全学年を貫いている。また，小学校低学年では「仲よく」が加わり，中学年では「互いに理解し，信頼し」，高学年では「互いに理解」という言葉がなくなり，「互いに信頼」「友情を深め」が加わっている。さらに中学校になると「友情の尊さ」「心から信頼できる友達」などより高い道徳的な価値が加えられている。
　中学年の内容項目の友人関係における「理解」とは，相手の気持ちやものの見方，考え方を理解しようとすることである。しかし，時として児童は「自分はこうだから相手もそうだろう」「みんながそうなのにあの子だけ違うのはおかしい」と相手を理解しようとしないことが起こってしまう。また，「信頼」とは相手の言動や行動に嘘がないと信じることである。友人関係では「相手は自分のことを大切にしてくれる」「嘘をついたりしない」と信じ互いの本心を語り合える状況である。「助け合い」は，互いに支え合うことである。自分に足りないところ，相手に足りないところを補い合うことである。こうしたことからこの内容項目で求めているのは，互いを信じ，支え合い，相手の思いを理解しようとする姿であるとらえた。
　高学年を前にした４年生のこの時期，友人同士の信頼の基に，友情を育てていくことの大切さに気付き，道徳的な実践に結び付けていくことが望まれる。しかし，児童は自分と似たような考えや

行動を起こせる人を友達として関係を深めていくことが多い。そして，ひとたび自分と違う，周りの人と違うと思うと友達であっても受け入れられなくなる。そして，変わってくれない相手にいらだちと不安を抱くことになる。

相手に変化を求めるだけではなく，自分から人を理解し，信頼し合う関係を築こうとすることで良好な友人関係を結んでいけることを学ばせていかねばならない。

(2) 児童の実態

全体的に活発で元気なクラスである。学級としてのまとまりはよく，休み時間には体育館や教室で，多くの児童が関わって遊ぶ姿がみられる。しかし，数人の児童が他人とのかかわりがうまくできず，トラブルになる姿がみられる。また，女子の中で友達の悪口を書くなど思いやりに欠けた行動をとる児童も出てきている。しかし，現在，学級集団が比較的良好な状況にあることから友達関係で大きな問題になっていない。

そこで実態を把握するため，10 月に行ったソーシャルスキル尺度に関してのアンケート調査（5 段階評価）※を再度行った。この調査では「配慮スキル」と「関わりスキル」の差が 2 段階以上あると友達関係で配慮が必要になる場合がある。10 月の段階では配慮が必要な児童は１／３程度見られた。学級担任の対応が効果を発揮し，今回はこれに該当する児童が前回の半数程度に減った。このうちのほとんどの児童が「かかわりスキル」が高い。この児童は相手にかかわる気持ちは強いが，人への配慮が足りない傾向がある。このため対人関係でトラブルになることが考えられる。あとの数名は配慮が強くなっており，自分の意思がうまく表現できないでいる可能性がある。

このような学級の状況を，さらによい方向に向けるためには，「配慮スキル」と「かかわりスキル」の向上が必要である。そのためには，友達への思いやりの気持ちを育てることである。そして，実践していこうという意欲をもたせることである。6 年生を前にしたこの時期，友達について深く考えることで，より高い道徳的価値に気付きき，実践意欲をもたせていく必要がある。

※アンケート項目を「配慮スキル」「かかわりスキル」に分けて集約し，得点にしたがって５段階評価する。低いと評価される項目の他，二つのスキルの評価の差が２段階以上ある場合，人との関わり方のバランスが崩れていることがあり注意が必要となる。この評価に，担任の見取りを加え友達関係などの指導に役立てる。　（都留文科大学　河村茂雄先生考案）

1　あなたにとって友達とはどんな人ですか。（複数回答可）

・いっしょにいて（遊んで等）楽しい　％
・仲がよい・気が合う・話が合う。　％
・相談（何か教えてもらったり等）に乗ってくれる。　％
・困ったときに助けてくれる。　％
・何でも話せる。　％

2　友達がいてよかったと思うときはどんなときですか。

・遊んでいるとき。　％
・手伝ってくれる，協力してくれる。　％
・励ます，なぐさめるなど　％
・（心配して）声をかけてくれる。　％

3　友達の「よいところ」「直したほうがよいところ」をわかりますか。

・両方わかる。　％
・よいところだけ　％
・わからない　％

4　友達の「よいところ」「直したほうがよいところ」を友達に直接言えますか。

・両方言える。　％
・よいところは言える。　％
・よくないところは言える。　％

アンケート（左）の考察の詳細は省くが，全体として遊びをベースに友人関係を築き，その中で得た友人関係で，気が合う，合わないという感情を抱いている様子がうかがえる。そこで，たとえ，遊びなどの関係が少なくても，同じクラス，同じ学年で生活している友達のよいところを自分から見つけていこうとする心情を養うことは大切であると考えている。

そして，互いに思いやりのある行動や言動につなげようとする意欲をもたせることができるなら，より良好な友人関係になっていくと期待している。

(3)　資料について

すべて自作の資料である。年度当初，級友によくないことがあると多くの児童が一斉に指摘する姿が見られた。現在は改善しているが，５年生になるとクラスが変わりまた新しく友人関係を築いていかねばならない。そこで，「よいところも，よくないところもあってこそ友達」という思いを養っていきたいと考え，この資料を自作した。

主人公のクラスには，陽一という力が強く悪口をよく言う友達がいる。クラスのみんなが敬遠している存在である。

その陽一が，ある日休みがちになる。どうしたのかと思っていると，突然の転校。最後のお別れにいくかどうか迷った主人公は結局いかない。しかし，一番いじめられていた孝幸はお別れに行く。そして，授業中に書いた孝幸の作文を聞いたとき，主人公を含めたクラスのみんなの心を動かしていく資料である。

孝幸が書いた作文には，「陽一は嫌いだけど，陽一のよいところ」が書かれている。その内容からクラスの友達が自分を振り返るが，振り返る内容は資料にない。児童に考えさせ，友達のよいところもよくないところも見て，互いに尊重し合うような思いを養いたいと考えた。

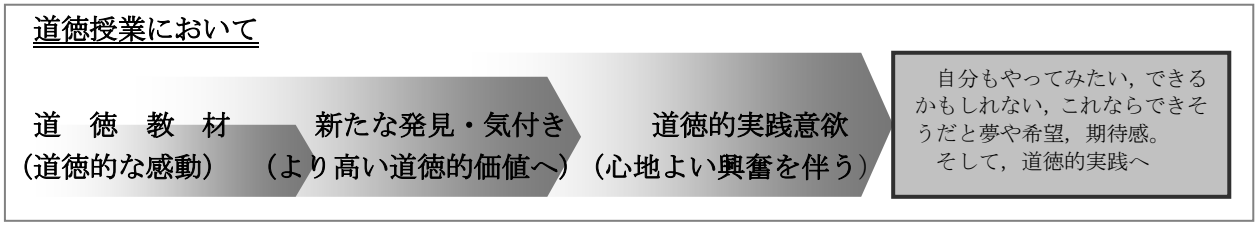
(4)　道徳授業へ授業者の思い

道徳の授業では児童が「これからの自分，明日の自分に未来に夢や希望，目標を抱き，その実現に向かって積極的に努力していこうとする力をつける」ことが望まれる。

児童が自分の未来に夢や希望を抱くには，道徳授業において一人一人の児童の心に響き，心を振るわせるような授業を進めていかねばならないと考えている。

児童の「心に響き心を振るわせる」には，授業において「道徳的な感動」を与えることが大切である。新たな発見や気付きがこれまでの考えを揺さぶり，心の動きを生む。この心の動きが「心に響き心を振るわせる」ことである。

さらに道徳教材（資料）の中にある主人公や登場人物の思いや行為から，今までより高い道徳的価値観にふれ，心地よい興奮にも似た道徳的実践意欲へとつなげたい。



また，授業を効果的に構成するため，読み物資料だけでなく，児童にとって身近な内容，児童が感動するような資料を自作する。写真や動画，場面絵，ＤＶＤ，テレビ番組，新聞など，ねらいを明確にして用いるならば，効果的な教材となっていく。

そして，児童間，児童と教師間の位置関係も考慮する必要がある。個人にじっくり考えさせたい場合は，自分の席で授業を進め，感動を共有させたい場合は互いに近い位置関係で進めるなど環境面でも心の動きに働き掛けることができる。

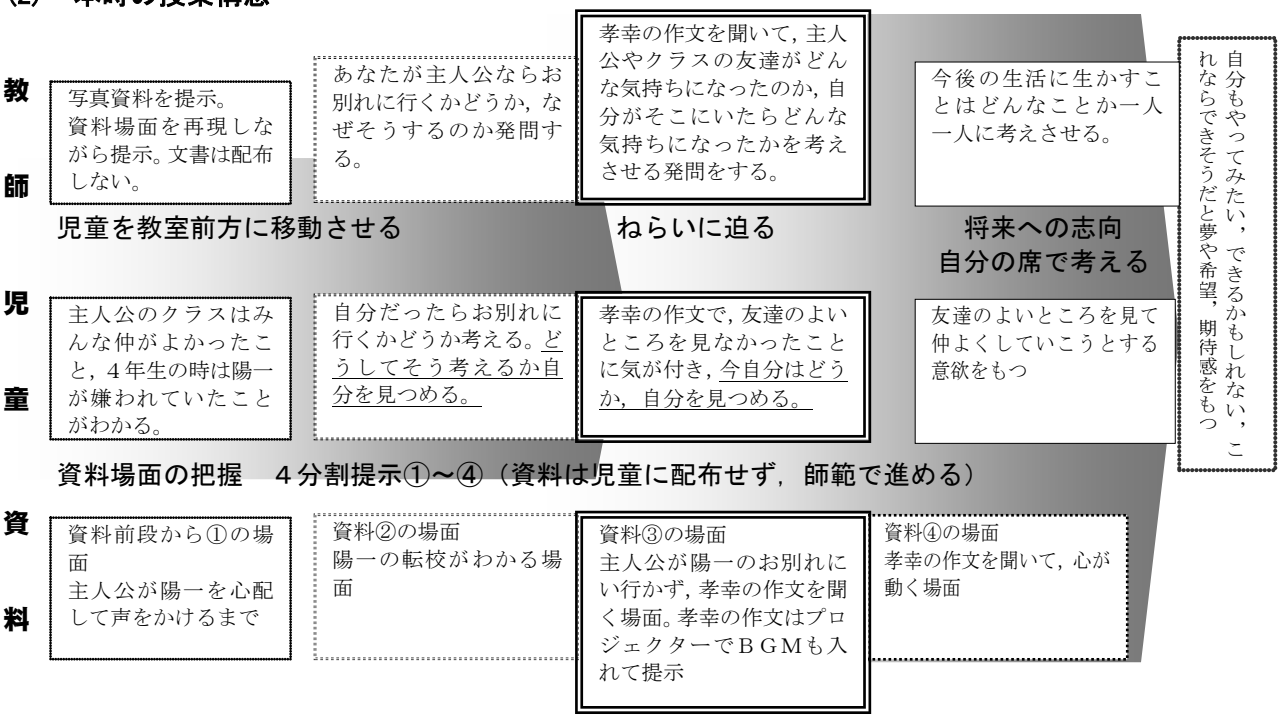
児童の心を揺さぶり，より高い価値を獲得し，「自分もできる」「自分も変われる」と希望をもたせ，道徳的な実践へ導く道徳教育を進めていきたい。

４　本時の指導

(1)　本時のねらい

主人公が，友達の書いた作文を読み，友達の長所も短所も認めていくようになる気持ちに共感することを通して，自分も友達を大切にしようとする意欲を養う。

(2)　本時の授業構想



本授業は大きく三つの段階で構成する。「資料場面の把握」「ねらいに迫る」「将来への志向」である。

「資料場面の把握」では，文章での資料は児童に与えず，黒板に資料場面のポイントとなる場面の絵を提示していく。このとき，後ろの席にいる児童を前に出し，それぞれの児童が距離的に近い状態をつくる。

そして，資料の内容は授業者が師範の形で進める。このとき「陽一はどんな子だったのか」「みんなは陽一をどう思いていたのか」など補助発問を行い，資料を把握させていく。

「ねらいに迫る」の場面では，孝幸の書いた作文をプロジェクターで提示する。ＢＧＭを入れることでより児童の心を動かすよう試みる。そして，主人公のクラスのみんなが，気が付いた内容は資料には載せず，児童に考えさせていく。

「将来への志向」の場面では，これからの生活の中で「どのようにしていきたいか」を児童に書かせる。これにより，本時で気付いた「自分から友達を大切にしようとする思い」を，これからの生活に生かす気持ちを表現させる。最後に，できるだけ多くの児童に発させ，互いの思いを共有していく。この時は自分の席に戻し一人一人考えさせる。

※**「気付く」**（気持ちが向く，関心をもつ，注意ができる状態）　**「共有」**二人以上が，同じ思いをもつこと

(3)　ねらいを達成するための主な手だて

①　児童にとって把握しやすい資料の提示

文章資料は児童に提示せず，資料を絵で示したり操作したりしながら，場面を構成していく方法をとる。この方法は，クラス全体の雰囲気を作り出す効果がある。さらに，心を揺さぶる場面を強調して進めることで，問題となる場面を意識付けすることができる。したがって児童

一人一人の心を，資料に深く共感させることができる。

また，問題場面での児童の反応や場面構成の様々な条件を加味し資料を示していける。授業者の適切な提示によって，一層効果が期待できる手法である。

さらに，いじめられていた孝幸の作文は児童の気付きを導き出す手立てである。より効果的に行うためプロジェクターで提示しＢＧＭもいれ一層心を動かすように提示する。

② 「自分ならどうか」を考えさせ，自分の言葉で話し合う意見交流の場の設定

主人公が陽一とのお別れにいくかどうか迷う場面で意見交流を行う。多くの児童は，お別れにいくと考えることが予想される。そこで，「いじわるをしたり悪口を言ったりして，みんなにいやがられている人でも，あなたはそうするのですか。」と「あなたは」を強調した発問を児童に出し，話し合いを深めていく。

児童は，自分のこれまでの道徳的な価値観からどうしたらよいか再度，判断するであろう。しかし，多くの意見を聞く中でそれぞれの考えがさらに深められていく。そして，今までより高い道徳的な価値に気付くことになる。

だが，主人公は児童の多くが考えるであろう「お別れにいく」ことはしない。ここで，再度児童に問い掛ける。「主人公の気持ちがわかりますか」「似たような経験はありませんか」と自分事として考えさせていく。

③ ワークシートに将来への志向を文章で表現させる

本授業では「友達のことを理解し，大切にしていこうとする意欲をもつ」ことをねらっている。そして，これから自分はこうしたいと実践への意欲をもたせたい。したがって「これから自分はどうしていくのか」（道徳的実践への意欲）考えさせたい。

そして，文章で表現した内容を，自分の言葉で語ることで他の児童にも共感させたい。表現された言葉は違っても「友達を大切にする」という，児童一人一人の思いが共有できれば実践意欲の継続につながると期待している。

（３）本時の展開

時間	主な教師の働き掛け（T発問･○教師の働きかけ）・児童の反応	・留意事項【】評価　○支援
00 分 03 分	**① 導 入** 資料前段（①より前）を提示し，みんなが認め合い助け合う学年であり，それを誇りにするほど楽しかったことを提示 Ｔ１　こんな学年，学級だったらどうでしょう。 Ｃすごく楽しいと思う。 Ｃ自分たちもそうだったらよいなと思う。	卒業式の場面絵を提示 ・席から離れ黒板の近くに集めて提示する。 ・児童のあこがれの気持ちを引き出したい。
03 分	**② 資料場面の把握** **資料場面を黒板に再現していく。** Ｔ２　あなたが主人公ならどんな気持ちになりますか。 Ｃせっかく心配したのに，いやな気持ちになる。 Ｃもう心配してやらない，という気持ち。 Ｃ何かあるのかな，とさらに心配になる。	資料①まで提示 ・黒板に資料場面を再現し，構成していく。文章資料は児童に渡さない。 ・陽一が「どんな子ども」で，「どんなふうに思われていたか」を確認するため児童に問い返していく。

25 分	Ｔ３　あなたが主人公なら「お別れ」のために残りますか。どうして残るのですか，あるいは残らないのですか。 Ｃ残ります。 いやな子だけど最後だからお別れをします。 もう会えないかもしれないから。 礼儀です。 Ｃ残りません。 いやなことをいっぱいされた人だから。 みんなが残らないと思うから。 ※主人公は残ったと思いますか，と余韻を持たせ次の場面を提示する。 **③ねらいに迫る** Ｔ４　孝幸くんの作文を聞いて，主人公とクラスの人は気が付きました。もし，このクラス（４年２組）で起こったことだとしたら，あなたはどんなことに気が付いて，どうしていきますか。 Ｃ陽一は，本当はよい人だったかもしれないのに，いじわる部分だけを見ていた。よいところも探してみようとした。 Ｃ友達のよくないことだけを見ていたことがわかったので，よいところも見ていった。 Ｃ仲よくしようとする努力がたりない，だからみんなで仲よくしていこうと声をかけあった。	資料②まで提示 ・児童の発言を聞きながら，「似たようなことはあったか」「それでよいのかな」と揺さぶる補助発問を入れて，深めていく。 【残るか残らないかを自分事として考えることができたか。】 Ａ　残るか残らないかを自分事として考え，**<u>挙手して発表している。</u>** Ｂ　残るか残らないかを自分事として考えている。 **評価方法**：発言の内容・挙手による意思表示 **支　　援**： ○「あなたなら，そうするのですか。」と問い返し，考えるよう支援する。 資料③まで提示　　孝幸の作文 ・補助発問で「残らなかった主人公の気持ち」が理解できるかどうか問う。 ・孝幸の作文がきっかけでクラスのみんながどんなことに気が付いてどうしていったから「こんなよいクラス（導入場面）になったんだろう」と投げかけＴ４の発問を行う。

35 分	**④ 将来への志向** ○よく考えましたね。 今日，考えたことを大切にしていきましょう。 Ｔ６　この授業で考えたことや学んだことを，ワークシートに書いてください。最後に発表しましょう。 ・友達は，よいところもよくないところもある。決めつけないでよいところも探して仲よくしていく。 ・友達のよいところを見付けて大切にしていくこと。 ・人があの人いやだね，といっても「こんなによいところもあるよ」といってあげていきたい。	【友達のよくないところだけではなく，よいところをよく見て仲よくしていこうとする意欲をもつことができたか。】 Ａ　友達のよくないところだけでなくよいところを見て，大切にしていこうとしている。 Ｂ　友達を大切にしていこうとしている。 **評価方法**：発言・ワークシート **支　　援**： ○「友達と生活しているときどんな気持ちが大切になるかな」と問いかけ，個別指導によって共に考えていく。 ・発表者の意見を温かい雰囲気で聞けるよう最後に拍手と似たような考えの児童からも発表をしてもらい，考えをつなげていくように指名する。
43 分 45 分	**○授業者説話** 友達はいて当たり前ではないこと，男女の別なく友達として相手の思いをよく考え，行動することが友達としてとっても大切であることを伝える。	

６　評　価

友達のよくないところだけではなく，よいところをよく見て，仲よくしていこうとする意欲をもつことができたか。※「意欲をもつ」積極的になにかをしようとする心の状態になる。

７　評価の方法

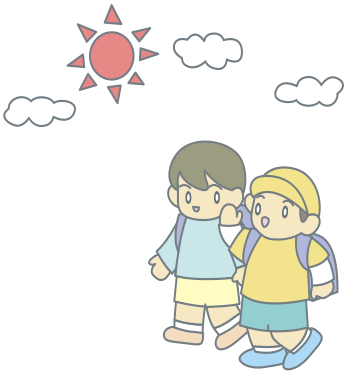
本授業での評価は，授業中の発言・ワークシートへの記述（記載内容と最後に書く授業への児童の評価）で行なっていく。

児童の発言については挙手による発言にとどまらず，授業者が指名していく形を多く取りたい。今思っていることを自分だけのものとせず，常にシェアリングの状況を形成していくことで思いを共有させていく。

道徳ワークシート

月　　日（　）

組　名前

道徳「ぼくは，知ってる　陽一のよいところ」で学習したこと

○　みなさんの心に残り，「これから」やってみたいと感じたことはどんなことですか。